

田尻町内遺跡群発掘調査概要11

2010.3

泉南郡田尻町教育委員会

はじめに

埋蔵文化財（遺物・遺構）を包蔵している遺跡は、普段は私達の目に触れるることは、ほとんどありません。地中の中で長い年月の間、遺構や遺物などの埋蔵文化財は保存されてきました。

しかし、近年開発等による掘削工事により埋蔵文化財が破壊されてきています。遺跡には、先人達の大切なメッセージが埋蔵文化財として託されています。そのメッセージを現在の人々、更には未来の人々に伝えてゆかなければなりません。

本書は、平成21年度に田尻町教育委員会が実施した埋蔵文化財調査の成果を収録しています。この地域の歴史像をさらに豊かにするための資料として活用していただければ幸いです。

概要を報告するにあたり、調査にご協力いただいた地元の方々並びに関係各位にお礼申し上げるとともに、今後とも文化財保護にご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

平成22年3月31日

泉州郡田尻町教育委員会
教育長 二澤 隆史

例　　言

1. 本書は、泉南郡田尻町教育委員会が平成21年度に実施した、大阪府泉南郡田尻町域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。
2. 調査は泉南郡田尻町教育委員会学事課文化財保護係 中野篤史を担当者として、平成21年4月1日に着手し、平成22年3月31日に終了した。
3. 本書における図面の方針については磁北を示す。
4. 調査の実施にあたっては、下記の諸氏の参加協力を得た。
野口礼　日出裕美子
5. 現地調査にあたっては、土地所有者をはじめとする工事関係者等多くの方々の協力を得た。感謝の意を表する。
6. 本書の執筆は野口、中野がおこない、編集は日出、中野がおこなった。
7. 本書は、平成21年4月から平成22年3月までに実施した調査を掲載している。

目 次

第1章 文化財調査の状況.....	1
1. 田尻町の位置と環境.....	1
2. 平成21年度の埋蔵文化財調査の現状.....	1
第2章 田尻町内遺跡群と周辺遺跡の概要.....	2
第3章 調査の概要.....	8
開発確認調査01.....	8
田尻遺跡第31次調査.....	9
田尻遺跡第32次調査.....	10
報告書抄録.....	卷末

挿 図

図1 田尻町位置図.....	1
図2 田尻町周辺の遺跡分布図.....	4
図3 調査地点位置図(開発確認調査01)	8
図4 調査区設定図(開発確認調査01).....	9
図5 上層断面模式図(開発確認調査01)	9
図6 調査地点位置図(田尻遺跡第31次調査)	9
図7 調査区設定図(田尻遺跡第31次調査)	9
図8 Tr.1出土遺物実測図(田尻遺跡第31次調査)	10
図9 土壟断面模式図(田尻遺跡第31次調査)	10
図10 調査地点位置図(田尻遺跡第32次調査)	10
図11 調査区設定図(田尻遺跡第32次調査)	10
図12 出上遺物実測図(山尻遺跡第32次調査)	11
図13 遺構平面図(田尻遺跡第32次調査)	11
図14 遺構平面図(調査履歴より作成)	12

挿 表

表1 過去5年間の届出件数表.....	1
表2 遺跡別発掘届出件数表.....	1
表3 届出・通知・試掘依頼一覧.....	2

図 版

図版1 土層堆積状況(開発確認調査01)	Tr.1土層堆積状況(田尻遺跡第31次)
図版2 Tr.2全景(田尻遺跡第31次)	調査区全景(山尻遺跡第32次)
図版3 調査区全景(田尻遺跡第32次)	溝05遺物出土状況(田尻遺跡第32次)

第1章 文化財調査の状況

1. 田尻町の位置と環境

田尻町は大阪府の南西部、大阪湾海岸線の南部に位置し、東は泉佐野市、南西は泉南市に接し、北西は大阪湾に面する。町域の面積は約4.96平方kmである。海岸線に並行して南海本線が、町域南部を国道26号線がとおり、泉南地域の基幹交通路となっている。町域の北東部から中央部にかけて田尻川、南西部を櫻井川が流れ大阪湾に注いでいる。



図1 田尻町位置図

2. 平成21年度の埋蔵文化財調査の現状

田尻町は、近年の財政状況の悪化により公共工事が減少し、また、不況下の影響により民間の小規模な分譲住宅や共同住宅等の開発も減少している。このため国庫補助事業をとりやめ単独事業として試掘調査を実施することになった。

平成21年度における文化財保護法第93条、第94条に基づく土木工事等による埋蔵文化財発掘の届出は個人住宅、民間開発、電気・ガス等に伴うもの6件、公共工事に伴うもの5件の計11件である。また、遺跡範囲外での各種開発確認調査のための試掘依頼の件数は1件となっている。過去5年間の文化財保護法関係の届出件数は表1、表2のとおりである。また、平成21年度調査地は表3のとおりである。

	個人 住宅	民間 開発	公共 工事	合計
平成17年度	0	17	0	17
平成18年度	1	6	2	9
平成19年度	2	1	1	4
平成20年度	0	2	2	4
平成21年度	2	4	5	11

(遺跡発見届出を含む)

表1 過去5年間の届出件数表

番号	遺跡名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
1	田尻遺跡	1	5	4	2	7
2	大姫池遺跡					1
3	船岡山遺跡	1	1		1	1
4	嘉祥神社本殿					
5	船岡山南遺跡					
6	藤波遺跡					
7	古見藩陣屋跡	2				2
8	羽倉崎遺跡					1
9	櫻井西遺跡					
10	林嵩遺跡					
11	中島遺跡	13	3			

(遺跡発見届出を含む)

表2 遺跡別発掘届出件数表

	申請者	中 請 地	原因	遺跡名	指導事項	検出遺構	出土遺物
1	個人開発事業者	田尻町大字嘉祥寺地内	店舗	範囲外	開発確認	なし	須恵器、土師器、黒色土器
2	西日本電信電話㈱	田尻町大字吉見地内	電話線埋設	田尻遺跡	慎重工事		
3	大阪府	田尻町大字吉見地内	水道管埋設	田尻遺跡	慎重工事		
4	田尻町	田尻町大字吉見地内	水道管埋設	田尻遺跡	慎重工事		
5	個人	田尻町大字吉見地内	個人住宅	田尻遺跡	慎重工事		
6	田尻町	田尻町大字吉見地内	水道管埋設	田尻遺跡	慎重工事		
7	個人開発事業者	田尻町大字吉見地内	共同住宅	田尻遺跡	試掘調査・本調査	溝、土坑等	須恵器、土師器、瓦器等
8	田尻町	田尻町大字吉見地内	下水道管埋設	田尻遺跡	工事立会	なし	なし
9	田尻町	田尻町大字嘉祥寺地内	水路改修	船岡山遺跡	工事立会	なし	なし
10	大阪ガス㈱	田尻町大字吉見地内	ガス管埋設	吉見藩陣屋跡	慎重工事		
11	大阪ガス㈱	泉佐野市羽倉崎3丁目地内	ガス管埋設	羽倉崎遺跡	慎重工事		
12	個人	田尻町大字吉見地内	個人住宅	吉見藩陣屋跡	慎重工事		

*太字は文化財保護法に基づく届出・通知

表3 届出・通知・試掘依頼一覧

第2章 田尻町内遺跡群と周辺遺跡の概要

田尻町内には縄文時代から近世までの11ヵ所の遺跡がある。ほとんどの遺跡は発掘調査件数が少なく、遺物散布地となっている。田尻町に接する遺跡（泉佐野市、泉南市）について下記に記す。

羽倉崎遺跡

田尻町の北東部、主に泉佐野市に広がる標高3m～6mに位置する古墳時代の遺物散布地である。古くに古代製塙土器が出土したとの記録があり、泉佐野市教育委員会による発掘調査が數回行われ90-01区の調査で江戸時代後半の陶器が出土している。

田尻町教育委員会による平成16年の調査で、耕作に伴う溝、水溜遺構、河川跡を検出している。包含層より土師器、瓦器が出土している。

船岡山遺跡

船岡山遺跡は、田尻町と泉佐野市にまたがる、樅井川の右岸に沿う沖積段丘上に位置する縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての遺物包含層がある遺跡である。これまでに大阪府教育委員会、泉佐野市教育委員会による同遺跡の調査で溝、土坑、柱穴が検出されている。

元は船岡山A～C地点に分かれていた遺跡であるが、調査を進めていく中で1つの遺跡であると判明し、昭和61年に3つの地点が集約され、船岡山遺跡となった。

主に、縄文時代後期～弥生時代の集落跡に位置づけでき、泉佐野市による55-02区の調査で庄内式甕や布留式甕、製塙土器、高杯形土器等を作った竪穴住居1棟、土坑、溝を、84-03区調査時に縄文時代晩期船橋式土器、弥生時代前期土器を作った掘立柱建物野倉庫1棟、土坑、溝を、91-03区調査で弥生時代後期～古墳時代前期の掘立柱建物倉庫1棟をそれぞれ検出し、遺物は石器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土している。また、同市の04-03区で遺構は出ていないが中世段階と思われる土師質壺片、近世の土坑や溝、落ち込み等が数箇所の調査区から検出されており、各時代にわたり人々の生活がうかがえる。同市の03-01区調査で溝等とともに遺構・遺物の密度から縁辺部が判明した。

船岡山南遺跡

田尻町の南東部、泉佐野市に広がる標高8m～10mに位置する弥生時代～中世にかけての遺物散布地である。泉佐野市による88-01区調査で遺物が若干数と、94-01区で中世の土師器、瓦器等が出土しているが、遺構は検出されていない。

藤波遺跡

田尻町の南部、主に泉佐野市に広がる標高10m～12mに位置する中世の遺物散布地である。平成20年度泉佐野市による発掘調査では溝、ピットが検出され、土師器、瓦器、陶磁器が出土している。

夫婦池遺跡

夫婦池遺跡は、田尻町と泉佐野市にまたがる、標高7m～9mにかけて位置する弥生時代から古墳時代にかけての遺物散布地である。泉佐野市による昭和61年度の調査では、中世廃絶の溝1条、江戸時代後半に廃絶したと思われる井戸、5世紀代の須恵器を含むピット、中世から現代にいたるスキ溝が検出されている。その他、土師器、瓦器、須恵器、陶磁器等の遺物が遺物包含層から出土している。

嘉祥神社本殿

桃山建築様式を伝える江戸時代初期の神社建築物。大阪府指定文化財。

吉見藩陣屋跡

田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高4m～5mに位置する中世～近世にかけての遺物散布地である。これまでの調査では、粘土採掘坑などが検出されている。遺物は、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土している。なお、遺跡内には大阪府指定文化財の田尻歴史館（旧谷口家古見別邸）がある。

林崎遺跡

田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高2m～4mに位置する近世墓地跡である。近代に移転された。これまでの調査により土坑、スキ溝などが検出されている。遺物は、陶磁器のほか弥生土器、土師器が出土している。

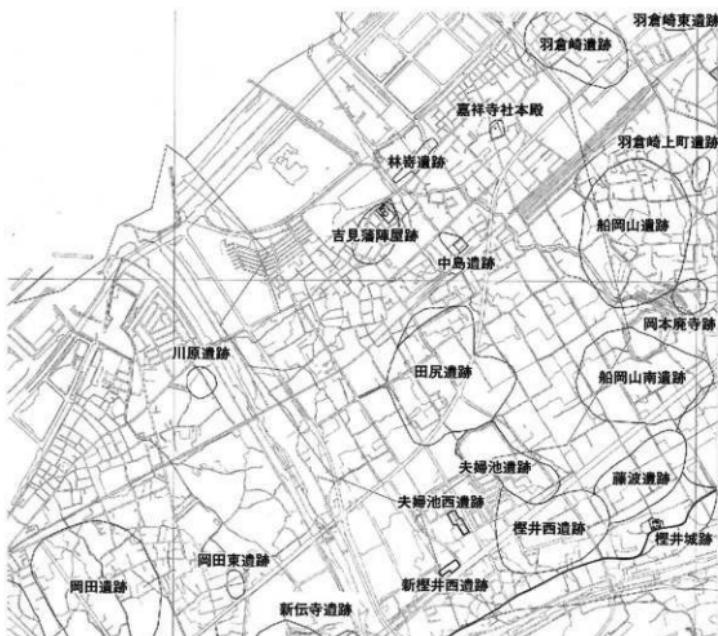


図2 田尻町周辺の遺跡分布図 1/20,000

中島遺跡

田尻町の中央部に所在する標高3.5~4mに位置する中世~近世の集落跡である。平成15年度に実施した試掘調査により新規に発見した。土坑、小穴、柱穴等の遺構が検出されている。遺物は瓦器、土師器が出土している。

田尻遺跡

田尻遺跡は、標高5m~7mにかけて位置する古墳時代から中世にかけての遺物散布地である。昭和60年の大阪府教育委員会の調査では弥生時代後期、古墳時代後期から奈良時代、中世の3時期の遺構・遺物が確認されている。弥生時代後期の溝が検出されている。昭和62年の調査では中世以降の農耕に伴う溝や近世以降の土坑が検出されている。平成6年の調査では中世に属する溝、土坑やピットが確認されている。

横井西遺跡

田尻町の南部、主に泉佐野市に広がる標高10m~11mに位置する。昭和60年度の発掘調査で新たに発見された遺跡で、弥生時代の方形周溝墓群と古墳時代~中世の集落跡である。泉佐野市による85-01区調査から弥生時代の総柱建物、方形周溝墓、ピット等が検出されており、特に同市の95-01区調査では、古墳時代中期の住居3棟と掘立柱建物2棟、土坑2基、溝、堀、弥生時代の

方形周溝墓群（6基）、さらに1号住居跡からはカマドや貯蔵穴などが検出され、当時の生活を知る重要な資料となった。平成9年度の同市の調査では、土坑から特殊な場所でしか出土しないとされる韓式系土器が出土し、当該地が祭祀のために使用されていた可能性もうかがえる。99-01区の調査では中世の溝が検出され、屋敷の区画溝と考えられている。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器などが出土しており、弥生時代～近世の幅広い時期のものが確認されている。

羽倉崎東遺跡

泉佐野市教育委員会の昭和61年度の試掘調査により新たに発見届けが提出された遺跡で、性格や時期については不明な点が多い。同市による98-04区調査時の湧き水と堆積状況から、中世以前はラグーンが続いており、集落などは形成されていなかったと判断されている。しかし、同市調査の92-01区からは中世雜器群が多く出土し、生活雜器の廃棄の場としての可能性がうかがえ、94-02区からは自然流路、落ち込み、粘土採掘坑の可能性がある土坑が検出されている。

また、同市による05-01区調査からは中世末期～近世の粘土採掘坑と考えられる土坑が検出され、幅広い年代の遺物も出土した。

羽倉崎上町遺跡

当遺跡は昭和62年度に泉佐野市による試掘調査で発見され、溝1条の検出と弥生土器の出土を確認したが、以降の調査が行われていないため、性格、時期は不明である。

岡本庵寺跡

当遺跡は近世の社寺跡であり、泉佐野市による85-01区調査時に18世紀代の陶磁器、00-01区調査で近世後半の遺物が出土している。しかし、同市による97-01区の調査では、中世後半に位置づけできる溝状の落ち込みと、古墳時代の須恵器等が出土しているため、周囲の古墳時代集落からの客入りか、未検出の集落の可能性がうかがえる。

櫻井城跡

櫻井古戦場に存在したとされる3箇所の中世城館の1つである。泉佐野市による87-01・02区調査で近世遺物包含層から大量の近世陶磁器、98-01区調査では使用法などは不明であるが近世後半と考えられる埋甕が出土している。また、同市による99-01区の調査では、中世に位置づけられる柱穴や小溝、落ち込み等が検出され、中世遺物包含層と見られる多量の中世遺物が出土しており、時期が合致する城館との関係が注目される。さらに、同市による1992年度の府道の歩道設置工事に伴う発掘調査と05-01区調査で弥生時代後期～庄内式併行期に埋没したと思われる自然流路、古墳時代後期の溝、土坑等が検出されている。

新櫻井西遺跡

平成17年度に泉佐野市教育委員会による試掘調査05-01区によって発見された遺跡である。地山直上の包含層より完形の上師皿が3枚重なって出土している。そのほかに落ち込みの覆土から須恵器の破片が出土している。また、07-01区の調査でも古墳時代の上師器が出土している。古墳時代から中世の集落跡。

夫婦池西遺跡

平成19年度泉佐野市試掘調査により新たに発見された遺跡で、古墳時代～中世の集落跡であるとされている。同市による07-01区調査で耕作に関連すると思われる古墳時代後期～中世の溝4条と、近世後半～近代前半の井戸が検出されている。また、遺構内から古墳時代後期の遺物、須恵器、遺構検出時には石鎚が出土している。

岡田東遺跡

泉南市による平成3年度試掘調査で新たに発見された遺跡である。同市91-01区調査より、竪穴式住居3棟と、庇を持つ大きな建物を含む掘立柱建物5棟、上坑数基、多数のピットを検出している。大きな建物1棟を除く7棟の時期は大きく違うものもなく、切り合いで大きな建物1棟が出現している。遺物から7世紀初頭以降のものが見られないため、建物群8棟の時期は6世紀末～7世紀初頭のものであるとされている。

岡田遺跡

岡田遺跡は中世の集落跡とされている。泉南市により89-01区で初めて発掘調査が行われ、中世の遺物包含層を確認した。以降、同市の調査では中・近世を中心とした遺構・遺物が確認されており、粘土採掘坑と思われる土坑、ピット、耕作に伴うであろう落ち込み、溝、井戸などが多数検出されている。特に、同市による91-01区の淨泉寺境内からは中世～近世の瓦、97-02区調査では、集落や寺域を区画するためと思われる中世の溝2条、上坑墓の可能性がある中世～近世の土坑が検出されている。また、同市98-01区調査において、遺構・遺物等は確認されなかったが、周辺調査からは出ない中世以前の堆積を示す上層が見られ、05-02区調査では中世以前のものである可能性のある溝が検出された。いずれも当遺跡の未確認部分を示唆する重要な資料として注目される。

新伝寺遺跡

奈良・平安時代の集落跡で、泉南市による91-01区・04-01区調査それぞれで掘立柱建物が検出されている。91-01区では、他に多数のピット、貞嫡壺焼成土坑を含む土坑29基、区画溝を含む溝6条が検出され、13世紀中頃～後半の集落跡であると考えられている。遺物は石鎚、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器等が出土している。04-01区は他に中世以降のピット多数、土坑2基、落ち込みが検出されている。出土遺物は一部7世紀中頃のものもあり、明確なまとまりは持たないが、概して8世紀中頃～後半に位置づけられている。周辺遺跡である海会寺跡と時期が合致するため、関係する古代集落の可能性がうかがえる。

(参考文献)	書名	編集・発行	発行年
『泉佐野市所在遺跡発掘調査概要』(一)溝遺跡・二軒屋遺跡・船岡山B地点遺跡	泉佐野市教育委員会		1981.3
『昭和60年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会		1986.3
『泉佐野市埋蔵文化財調査報告書』(一)夫婦池遺跡発掘調査報告書～市営住宅建築工事に伴う調査	泉佐野市教育委員会		1986.3

『昭和61年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅸ』	泉佐野市教育委員会	1987.3
『昭和62年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅹ』	泉佐野市教育委員会	1988.3
『昭和63年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅺ』	泉佐野市教育委員会	1989.3
『平成2年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会	1991.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成6年度』	泉佐野市教育委員会	1995.3
〔第22号〕『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会	1996.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成9年度』	泉佐野市教育委員会	1998.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成10年度』	泉佐野市教育委員会	1999.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成11年度』	泉佐野市教育委員会	2000.3
『第40号 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会	2000.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成12年度』	泉佐野市教育委員会	2001.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成15年度』	泉佐野市教育委員会	2004.3
〔第49号〕『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会	2006.1
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成17年度』	泉佐野市教育委員会	2006.3
『第56号』『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会	2008.3
『泉佐野市埋蔵文化財調査報告書65 夫婦池西遺跡07-1区の調査』	泉佐野市教育委員会	2008.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成19年度』	泉佐野市教育委員会	2008.3
『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅷ 泉南市文化財調査報告書 第二十一集』	泉南市教育委員会	1990.3
『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅸ 泉南市文化財調査報告書 第二十二集』	泉南市教育委員会	1992.3
『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅹ 泉南市文化財調査報告書 第二十四集』	泉南市教育委員会	1993.3
『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅺ 泉南市文化財調査報告書 第三十一集』	泉南市教育委員会	1998.3
『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅻ 泉南市文化財調査報告書 第三十三集』	泉南市教育委員会	2000.3
『新伝寺遺跡91-1区・轄代遺跡03-3区発掘調査報告書 泉南市文化財調査報告書 第43集』	泉南市教育委員会	2004.3
『泉南市遺跡群発掘調査報告書 XIII 泉南市文化財調査報告書 第四十四集』	泉南市教育委員会	2005.3
『泉南市遺跡群発掘調査報告書 XIV 泉南市文化財調査報告書 第四十六集』	泉南市教育委員会	2006.3
『大阪府文化財調査概要 1984年度』所収『田山遺跡発掘調査概要 付章 田山遺跡の調査』	大阪府教育委員会	1985.3
『昭和62年度 山尻遺跡・船岡山遺跡発掘調査概要』	大阪府教育委員会	1988.3
『泉州郡遺跡群発掘調査概要・Ⅲ』	大阪府教育委員会	1993.3
『田尻町遺跡発掘調査概要』	田尻町教育委員会	1994.7
『田尻町内遺跡群発掘調査概要 1』	田尻町教育委員会	2000.3
『田尻町内遺跡群発掘調査概要 2』	田尻町教育委員会	2001.3
『田尻町内遺跡詳細分布調査概要』	田尻町教育委員会	2001.3
『平成12年度 田尻遺跡発掘調査概要』	田尻町教育委員会	2001.3

「田尻町内遺跡群発掘調査概要 3」	田尻町教育委員会	2002. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要 4」	田尻町教育委員会	2003. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要 5」	田尻町教育委員会	2004. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要 6」	田尻町教育委員会	2005. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要 7」	田尻町教育委員会	2006. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要 8」	田尻町教育委員会	2007. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要 9」	田尻町教育委員会	2008. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要 10」	田尻町教育委員会	2009. 3

第3章 調査の概要

平成21年度において実施した遺跡範囲外での開発確認調査1件、遺跡内での試掘1件と本発掘調査1件についてその概要を記す。

開発確認調査01

申請者：個人事業者

調査地：田尻町嘉祥寺地内

申請面積：304.44m²

調査面積：1.2m²

調査期間：平成21年5月25日

調査の概要

今回の調査は、遺跡範囲外での店舗建築に伴う開発確認調査である。調査地は標高2m付近に位置し、北に田尻川が流れている。調査地の北側には近世墓地の林寄遺跡、南側には中世の集落跡の中島遺跡、西側には中世から近世の時代に属する吉見藩陣屋跡がある。



図3 調査地点位置図 S=1/5,000

調査は、計画地の中央部に幅60cm、長さ2mの調査区を設定し、機械により遺物、遺構に注意しながら掘削を実施した。調査区の層序は上から盛土（層厚約14cm）、にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3、層厚約22cm）、灰黄褐色土（10YR4/2、層厚約15cm）、にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3、層厚約13cm）、灰黄褐色粘質土（10YR4/2、層厚約16cm）、灰黄褐色粘土（10YR4/2）の順に堆積している。にぶい黄褐色粘質土より須恵器、土師器、黒色土器の破片が出土している。

遺構は検出していない。



図4 調査区設定図 S=1/400

	V	V	V
①	盛土		
②	(に)い黄褐色砂質土 (10YR4/3)		
③	灰黃褐色土 (10YR4/2)		
④	(に)い黄褐色粘質土 (10YR4/3)		
⑤	灰黃褐色粘質土 (10YR4/2)		
⑥	灰黃褐色粘土 (10YR4/2)		

図5 土層断面模式図

田尻遺跡第31次調査

申請者：個人事業者

調査地：田尻町吉見地内

申請面積：1,498.90m²

調査面積：8 m²

調査期間：平成22年1月13日

調査の概要

平成22年1月13日に開発道路予定地内に2箇所の調査区を設定し、約8m²について試掘調査を実施した。

調査区1（Tr.1）は開発道路計画部分の大坂側に幅1.5m、長さ2mの約3mについて遺物、遺構に注意しながら掘削した。調査区の層序は上から下に①耕土、②暗灰黄色（2.5Y4/2）土、③灰黄褐色（10YR4/2）土、④暗灰黄色（2.5Y4/2）粘性砂質土、⑤黄褐色（2.5Y5/3）粘質土、⑥灰黄褐色（10YR4/2）粘質土、地山の順に堆積している。黄褐色粘質土中より須恵器片が出土している。

調査区2（Tr.2）は開発道路計画部分の和歌山側に幅1.5m、長さ3.5mの約5mについて遺物、遺構に注意しながら掘削し



図6 調査地点位置図 S=1/5,000



図7 調査区設定図 S=1/800

た。調査区の層序は調査区1(Tr.1)と同じである。

調査区2の東側で土坑を検出した。土坑は黄色い粘質土を採掘した痕跡であると考えられる。

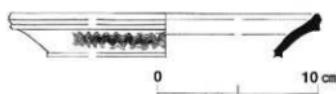


図8 Tr.1出土遺物実測図



図9 土層断面模式図

田尻遺跡第32次発掘調査概要

申請者：個人開発事業者

調査地：田尻町吉見地区内

申請面積：1,498.90m²

調査面積：144m²

調査期間：平成22年2月22日～

平成22年3月4日

調査の概要

平成22年1月13日に試掘調査を実施した結果に基づき、計画道路部分について発掘調査を実施した。平成22年2月22日に調査を開始し、3月4日に終了した。

調査は計画道路予定地に幅6m、長さ24mの調査区を設定し144m²について実施した。調査区の層序は第31次調査と同じで上から下に①耕土、②暗灰黄色(2.5Y4/2)土、③灰黄褐色(10YR4/2)土、④暗灰黄色(2.5Y4/2)粘性砂質土、⑤黄褐色(2.5Y5/3)粘質土、⑥灰黄褐色(10YR4/2)粘質土、地山の順に堆積している(図9参照)。包含層中より須恵器、土師器、瓦器等が出土している。

調査区より大溝1条、溝6条や粘土採掘土坑2基の遺構を検出した。

大溝は調査区の東端で検出し、規模は不明であるが南北方向に延びる溝であると考えられる。遺構検出面からの深さは1m10cmを測る。砂層

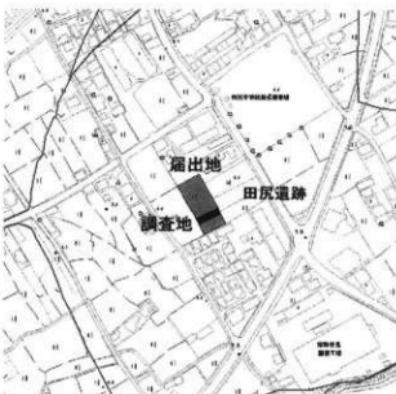


図10 調査地点位置図 S=1/5,000

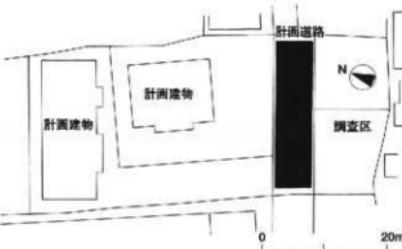


図11 調査区設定図 S=1/800

の堆積は少なく、黄灰色粘土、黒褐色粘土が堆積している。造構内から遺物は出土していない。

溝01は調査区の西端で検出した南北方向に延びる溝である。検出した溝の規模は、幅50cm、深さ13cmを測る。溝の堆積土は地山混じる灰色土である。溝内から土師器、瓦器や瓦の破片が出土している。

溝02は調査区の西部で検出した南北方向に延びる溝である。検出した溝の規模は、幅50cm、深さ8cmを測る。溝内には灰色粘質土が堆積している。溝内から遺物は出土していない。

溝03は調査区の西部で検出した南北方向に延びる溝である。検出した溝の規模は、幅60cm、深さ10cmを測る。溝内には灰色粘質土が堆積している。溝内から弥生土器、土師器の細かい破片が出土している。

溝04は調査区の中央部で検出した南東から北西方向に延びる溝である。検出した溝の規模は幅30cm、深さ6cmを測る。溝内には灰色粘質土が堆積している。溝内から弥生土器と思われる細かい破片が出土している。

溝05は調査区の中央部で検出した南東から北西方向に延びる溝である。検出した溝の規模は幅90cm、深さ8cmを測る。

溝内には灰色粘質土が堆積している。溝内から弥生土器甕口縁部が出土している。

溝06は調査区の南西端で検出した南東から北西方向に延び

る溝である。全体の規模は不明であるが、検出した深さは41cmを測る。溝内には黄灰色粘質土が堆積している。田尻遺跡第26次調査区東部で検出した溝の一部であると思われる。溝内から遺物は出土していない。

粘土探掘土坑01は調査区の中央部で検出した平面プランが長方形の土坑である。幅2m20cm、検出長3m60cm、深さ49cmを測る。土坑内には上層がオリーブ褐色混じる暗灰黄色砂質土、下層に黄灰色砂質土が堆積している。土坑内から遺物は出土していない。時期は近世から近代に比定される。

粘土探掘土坑02は調査区の中央部で検出した不定形の土坑である。長さ3m、幅2m70cm、深さ

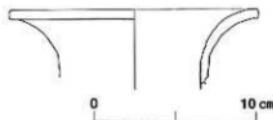
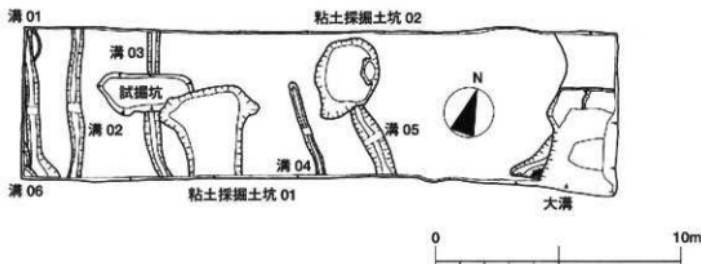


図12 出土遺物実測図



19cmを測る。土坑内には暗灰黄色砂質土が堆積している。土坑内から土師器の破片が出土している。時期は近世から近代に比定される。

調査のまとめ

今回の調査では大溝1条、溝6条や粘土採掘土坑2基を検出した。遺物も包含層中より土師器、須恵器、瓦器等の破片が出土し古墳時代から中世まで多岐にわたっている。

今回の調査区の東端で検出した大溝は、全容は不明であるが、位置関係から1984年度に大阪府教育委員会の発掘調査で検出したSD08の延長ではないかと考えられ、弥生時代後期から古墳時代に比定される。

溝01から溝05は中世の遺物包含層よりも下層にある点、地山面を掘り込んでいることなどから、中世以前の溝であると考えられる。また、溝01から溝03の南北方向の溝と溝04・溝05の南東から北西方向の溝とは若干角度が違うことと、溝04、溝05から弥生土器が出土していることから時期が違うと考えられる。

田尻遺跡については、まだ明確な遺跡の性格は判明していないが、同遺跡内には弥生時代から古墳時代にかけての規模の大きな溝が数条発見されている。またその溝から分岐していると思われる灌漑用の溝も発見されていることから、弥生時代後期から古墳時代頃には拓かれていたのではないかと思われ、今後さらなる調査の進展を期す。

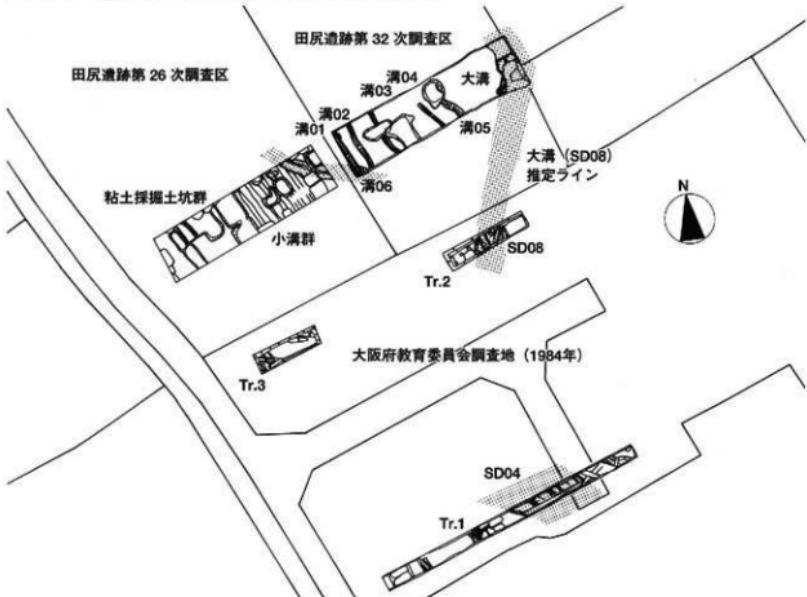


図14 遺構平面図（調査履歴より作成）1/600

図版



土層堆積状況（開発確認調査01）



Tr.1 土層堆積状況（田尻遺跡第31次）



Tr. 2 全景（田尻遺跡第31次）



調査区全景（田尻遺跡第32次）



調査区全景（田尻遺跡第32次）



溝05遺物出土状況（田尻遺跡第32次）

報告書抄録

ふりがな	たじらちょうないいせきぐんはくくちょうきがいよう							
書名	田尻町内遺跡群発掘調査概要							
副書名								
卷次	11							
シリーズ名	田尻町文化財調査報告							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	野口礼、日出裕美子、中野篤史							
編集機関	泉南郡田尻町教育委員会							
所在地	大阪府泉南郡田尻町大字嘉祥寺883番地の1							
発行年月日	2010年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
遺跡範囲外	おおさかふ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじりちょう 田尻町 かしょじ 嘉祥寺			34° 39' 451"	135° 28' 971"	平成21年 5月25日	1.2	店舗建築
田尻遺跡 第31次	おおさかふ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじりちょう 田尻町 よしみ 吉見			34° 38' 837"	135° 29' 026"	平成22年 1月13日	8	共同住宅 建築
田尻遺跡 第32次	おおさかふ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじりちょう 田尻町 よしみ 吉見			34° 38' 837"	135° 29' 026"	平成22年 2月22日～ 3月4日	144	共同住宅 建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
遺跡範囲外			なし	須恵器、土師器、 黒色土器				
田尻遺跡 第31次	散布地	古墳	土坑、溝	須恵器、土師器				
田尻遺跡 第32次	散布地	古墳一中世	土坑、溝	弥生土器、須恵器、 土師器、瓦器				

田尻町文化財調査報告 第18集

田尻町内遺跡群発掘調査概要11

2010年3月

編集・発行 泉南郡田尻町教育委員会

〒598-0091

大阪府泉南郡田尻町大字嘉祥寺883番地の1

TEL 072-466-8801

印 刷 小笠原印刷株式会社

大阪府泉佐野市新安松2丁目4-1

